

今後の活動紹介

役職員研修会 協同組合のアイデンティティを考える ～ IYC2025と見直し案から～

日時：2025年3月12日(水)
14:00～16:00 (予定)
講師：日本協同組合連携機構 (JCA)
場所：わかやま市民生協本部2階
E*KAOホール
(和歌山市太田三丁目10-10)

参加：無料
※詳細についてはホームページにてご案内します。

第10回 0歳児からの音楽会

日時：2025年3月26日(水)
①10:00～ ②13:00～ (2回公演)
演奏：[Wa_Corda] わ・こるだ
バイオリン 小倉浩晃
コントラバス 小倉充子
ピアノ 高山陽子
場所：わかやま市民生協本部2階
E*KAOホール
(和歌山市太田三丁目10-10)

参加：無料
※詳細についてはホームページにて、ご案内します。

ホットな消費者見守りニュース94号

～消費者被害にあわないための最新情報をお届けします！～

ホットな消費者見守りニュース



- ポイント
- 海産物の電話勧誘トラブルに関する相談が寄せられています。「困っている」「助けてほしい」などと言って消費者の親切心や同情心につけ込む勧誘や、強引な勧誘が見られるため注意が必要です。
 - 勧誘を受けた際、少しでもおかしいと感じたら、きっぱりと断りましょう。
 - 電話勧誘で契約をしたときは、クーリング・オフができます。
 - 断ったのに商品が送られてきた場合は受け取りを拒否し、代金を支払わないようにしましょう。受け取ってしまった場合でも、販売業者に対し返金を求めることができます。

和歌山県消費生活センター

和歌山市手平2丁目1-2
県民プラザ和歌山ビッグ愛8F
電話：073-433-1551
FAX：073-433-3904
(月～金)9:00～17:00
(土・日)10:00～16:00(電話相談のみ)
(祝日・年末年始を除く)

和歌山県消費生活センター 紀南支所

田辺市朝日ヶ丘23番1号
県西牟婁総合庁舎内
電話：0739-24-0999
FAX：0739-26-7943
(月～金)9:00～17:00
(祝日・年末年始を除く)

※短縮ダイヤル☎188でもお近くの相談窓口につながります。

協同組合がよりよい社会を築きます

和歌山中央医療生活協同組合・わかやま市民生活協同組合・和歌山県学校生活協同組合・和歌山県労働者共済生活協同組合
オレンジコープ(泉南生活協同組合)・紀の国医療生活協同組合・和歌山大学消費生活協同組合・和歌山県立医科大学生活協同組合
和歌山高齢者生活協同組合・メルスィー生活協同組合・生活協同組合コープ自然派おおさか

和歌山県 生協連ニュース



和歌山県生活協同組合連合会
TEL.073-474-9095 FAX.073-474-8649
https://www.wakayamakenren.jp/



2024年度の活動紹介

第34回和歌山県生協大会を開催しました



2024年12月5日、第34回和歌山県生協大会をわかやま市民生協E*KAOホールにて開催しました。
生協大会は、年に一度和歌山県生協連の会員生協の役職員・組合員が一堂に会し、交流と連帯を深め、県内における生協活動の発展につなげることを目的に開催しています。ハイブリット(会場とオンライン)開催で67人の参加がありました。



一部式典では、阿部会長理事の挨拶、続いて臨席ご来賓の中から、和歌山県環境生活部生活局長吉富秀明氏、和歌山県農業協同組合中央会専務理事前田年史氏、和歌山県労働者福祉協議会常務理事北原卓哉氏、日本生活協同組合連合会関西地連事務局長村上毅氏の4名よりご挨拶をいただきました。



20年永年勤続表彰では県連の会員生協で通算20年以上勤務された5人の功勞に対し、表彰状と記念品を贈呈しました。
二部の記念講演は「協同組合のアイデンティティに関するICA声明について考えるー2025国際協同組合年に向けてー」と題し、日本協同組合連携機構(JCA)常務理事の伊藤治郎氏に講演いただきました。



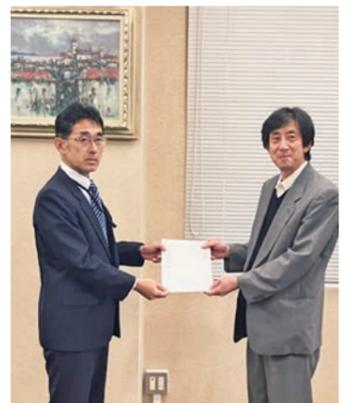
国連が2025年を2012年に続き「国際協同組合年」と定め、協同組合が世界的課題にとりくむための重要な解決策であること、さらにSDGsを進めるうえで協同組合が果たす役割の大きさを強調していること、紹介がありました。

今回開催のニューデリーでのICA総会でアイデンティティ声明改定案の提案があり、今後、改定案を協議し、しかるべき大会で考え、総会で決定していく(2026年以降の見通し)との紹介がありました。

和歌山県へ要望書を提出し、回答書を受け取りました

毎年、県政の充実強化につながる施策提案や連携、会員生協の事業・運営に関する支援と理解促進を目的に和歌山県に要望書を提出しています。2024年10月9日に和歌山県環境生活部 山本部長に、阿部会長理事から手渡しました。

11月26日に吉富生活局長より回答書を受け取った後、担当課より、「災害時支援物資の備蓄及び事業者との調達協定について」「災害時の孤立集落対策としての市町村への通信機器の整備支援」「道路施設の維持管理及び災害時の機能確保」について説明をいただきました。



- ＜今年度の主な要望事項＞～新たな要望事項中心に～
1. 消費者行政について
 2. 県、市町村の消費者行政の充実・強化、第三次和歌山県消費者教育推進計画の策定による消費者教育の推進
 3. 医療介護行政について
 4. 新興感染症拡大時に事業継続を目的とした財政支援の要望や、熱中症予防対策への支援
 5. 防災対策について
 6. 南海トラフ巨大地震や記録的豪雨等に備えた災害対策の充実
 7. 福祉・介護施設・児童施設について
 8. 中山間地だけでなく市街地などの買い物弱者への対応、第5次和歌山県環境計画の温室効果ガス削減目標の推進
 9. 食品安全行政について
 10. 「健康食品」の啓発・情報発信、食中毒予防に向けて情報発信および指導啓発の強化
 11. 食育について
 12. 和歌山県の持続可能な開発(SDGs)とりにくみについて
 13. LGBT理解増進法施行の対応について
 14. 制度やサービスについての啓発やさらなる充実を要望
 15. 生協の取組に対する理解促進のための知事との懇談
 16. 県生協連、会員生協の事業や運営に関する支援について

役職員研修会を開催し、役職員としての責任・役割について学びました

生協のトップリーダーを講師にむかえ、組織が健全に運営していくための方法等、役職員としての責任や役割、生協のガバナンスについて学びました。



①「生協のガバナンスと理事の職務・役割」開催

2024年10月24日、日本生協連関西地連運営委員会議長で日本生協連常任理事であり、大阪いずみ市民生協理事長の勝山暢夫氏を招き、研修会を開催しました。役職員48人が参加し、生協法や事業・活動、生協の種類などの基本から、理事の職務・権限・責任については、生協法改正やいずみ市民生協の状況などを紹介いただき、「総代会」は生協の運営に係る重要事項を決定する最高の意思決定機関であること。その総代会の決定に基づき重要事項の決定と代表理事などによる業務執行状況の監督を行なうのが理事会、監事は理事会や代表理事が総代会で決定された事業計画や予算にそって忠実に職務を遂行しているか不正や誤りがないかを監査する役割を担っているなど理事の職務・役割について話していただきました。



②「よくわかる財務会計講座」開催

2024年12月11日、全国職域生協協議会運営委員であり経営管理小委員会の座長を務めるメルスィー生協理事長の松永賢司氏を招き、2回目の研修会を開催し、役職員40人が参加しました。会計の基本である仕訳から貸借対照表(B/S)と損益計算書(P/L)の見方について講義を受けたあと、3グループに分かれて、所属生協の財務について紹介と問題点を話し合いました。はじめての試みでしたが普段なかなか話することがない他生協の役職員と交流でき「いろんな生協の悩みなど共有できてよかった」「グループディスカッションでの情報交換は非常に為になりました」と好評でした。



「令和6年度関西広域応援訓練 実動訓練」に参加しました

2024年10月29日、関西広域連合が主催する0次拠点開設や運営についての訓練に参加しました。0次拠点とは、和歌山県など府県内で1次拠点を開設できない場合、府県が要請し使用する場所です。

南海トラフ大地震が発生し、和歌山県内に被害が起こった場合、兵庫県三木市より物資が届く可能性も考えられます。

国、行政や協定を結ぶ運輸、流通、小売業など64人が参加し、初動時の対応についてグループに分かれ図上訓練を実施。その後、開設訓練として安全講習や技術指導が行われました。



「第41回生協まつり」に災害支援ショップとして出店

2024年10月6日、和歌山城砂の丸広場で開催された「第41回生協まつり」に和歌山県生協連も和歌山県協同組合組織連絡会の一員として出店参加しました。

今回は、能登半島地震の被災地支援として「わらび餅のパウム」を販売しました。このほか、和歌山県生協連の災害支援に関する活動などをパネルで紹介しました。「能登の支援になるなら」と購入してくれた方が多くいました。



「第44回労働者福祉まつり」にて焼き鳥販売

2024年11月23日、「親子で楽しい一日を過ごそう」をテーマに、和歌山県勤労福祉会館プラザホープで「第44回労働者福祉まつり」が和歌山県労働者福祉協議会主催で開催されました。

和歌山県生協連は焼き鳥販売と活動紹介展示を行ないました。来場者数は1,000人でした。(主催者発表)

コロナ禍後、はじめてプラザホープでの開催となりました。風がつよく冷え込む日でしたが、販売は好調でした。そのほか、コーすけ、コッピーの着ぐるみが会場を盛り上げました。



能登半島地震・豪雨災害支援 もとやスーパーに鮮魚を贈りました

令和6年能登半島地震から1年を迎えようとする12月、輪島市町野町にある「もとやスーパー」に鮮魚を贈ろう！とNPO法人リエラから呼びかけがありました。和歌山県生協連ではこれを受け、わかやま市民生協に相談したところ、わかやま市民生協より「令和6年能登半島地震及び能登豪雨災害募金」の一部で魚を調達、和歌山県生協連に寄贈していただき、県連より、大阪府連にお願いしてボランティアバスに積載し「もとやスーパー」に届けました。「もとやスーパー」では、魚を刺身などに加工して安価で販売。周辺の方の食卓に魚を届けることができました。

届けた魚介類10kgの種類
紋甲イカ、グレ、チヌ、スズキ、イトヨリ、イサギ、丸ハゲ、太刀魚、シマダイ、ウチワハゲ、サゴシなど

